



「犯罪被害者の心の回復とエンパワメントのために
医療と表現活動が果たす役割とは？
第一線で活躍中のお二人の初対談
貴重な機会をお見逃しなく！

特別対談

高瀬 泉 + 大藪 順子

犯罪被害後の人生に希望の光を！

9月23日（火・祝）13:30～15:00

KDDI 維新ホール 会議室 205

入場無料

お申し込みは こちらから



高瀬 泉（たかせ・いずみ）

法医学者

山口大学大学院医学系研究科教授

東京大学大学院医学系研究科修了（医学博士）。

2009年より山口大学大学院医学系研究科（法医学分野）講師、同准教授を経て、2020年より現職。法医解剖の結果から事件性の有無を判断し、鑑定結果を社会に還元して事件・事故の予防につなげるため、児童虐待や性犯罪の鑑定にも力を注ぐ。

2006年より大阪府児童虐待等危機介入援助チーム委員を務める。2010年4月から2025年6月まで性暴力救援センター・大阪(SACHICO)運営委員・理事。



大藪 順子（おおやぶ・のぶこ）

フォトジャーナリスト

米シカゴのコロンビア大学フォトジャーナリズム科卒業後、米国の新聞社の専属写真家として勤務。写真プロジェクト「STAND:性暴力サバイバー達」がアメリカでTVドキュメンタリーとなり、全米と日本各地で展示会と講演会を展開。団体 Picture This Japan を立ち上げ、マイノリティや犯罪被害者が主体的に表現する場を提供し、内側から社会を可視化するプロジェクトを企画運営する。著書『STAND 立ち上がる選択』フォレストブックス 2007、監修『その後 佇んで、見えたもの』STAND Still 2024。

共催： しあわせ山口・NPO 法人山口女性サポートネットワーク

協力： STAND Still・STAND Still 東京・STAND Still 山口

後援： 山口県・山口県教育委員会・山口県弁護士会・山口被害者支援センター

毎日新聞社・朝日新聞社・中国新聞防長本社

yob 山口朝日放送・tys テレビ山口・KRY 山口放送・F 山口エフエム山口

この事業は「山口県 民間犯罪被害者等支援団体の活動支援に係る助成金」を活用して実施します

9月23日 10:00~13:00 / 15:00~16:00

同じ会場です

同時開催 **STAND Still**

性暴力サバイバー ビジュアルボイス 作品展



STAND Still

フォトジャーナリスト大藪順子氏が始めたプロジェクト「性暴力サバイバービジュアルボイス」に参加したメンバーが活動継続のため立ち上げた団体。

#MeToo と言えない・言わない人たちが写真を通して「思い」を表現する安全な場づくり、エンパワメントを促すワークショップを企画運営する。参加者による作品は全国各地で展示されている。

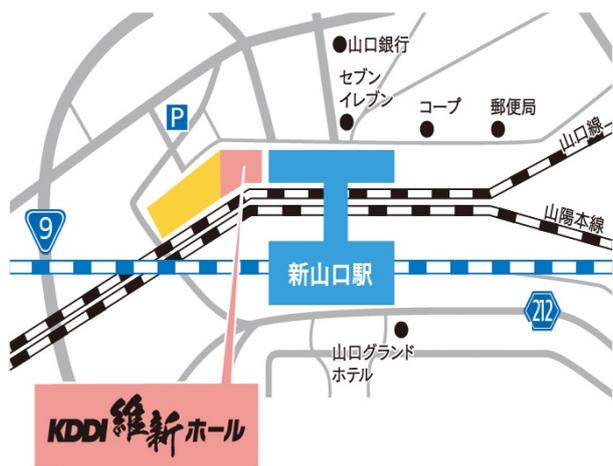


What Became Visible After STANDING Still
その後 竹んで、見えたもの

Collective work of the Project "STAND Still - Visual Voices of Sexual Violence Survivors"
プロジェクト「STAND Still - 性暴力サバイバービジュアルボイス」作品展 大藪順子 展
Introduction by Nobuko Oyabu, Photojournalist



ワークショップの様子



会場：山口市小郡令和 1-1-1 TEL 083-902-6727

お問い合わせ先：しあわせ山口(事務局)

✉ blessed.yamaguchi2025@gmail.com